

「人・まち・わづくり部会」まとめ（素案）

平成 28 年 1 月 29 日（金）

1. 審議の方向性とテーマ

- 「人・まち・わづくり部会」では、第 2 回の全体会議において「人・組織・地域のつながりづくり」を仮のテーマとして設定し、地域コミュニティについて考えていくこととしました。

【課題①】

これまでも区民会議ではコミュニティをテーマに調査審議を行ってきたが、非常に難しいテーマのため、具体的な成果が見えにくかった。

【課題②】

区内でも、今後地震や台風、大雨などにより災害の発生が懸念されるが、防災・減災には地域における住民同士のつながりづくりが重要である。

○防災活動を通じたコミュニティづくり

地域コミュニティの活性化と防災・減災の取組は密接に関連すると考え、「防災活動を通じたコミュニティづくり」を審議の方向性として、防災活動を中心に地域での取組事例などを調査・研究し、それを広めるための方法を審議・検討することとしました。（第 3 回全体会議）

○方向性の見直し

「防災活動を通じたコミュニティづくり」を審議の方向性として、より具体的な調査審議に入りましたが、かりがね台自治会長のお話（資料編〇〇P参照）などを踏まえ、防災や減災のためには、良好な地域コミュニティの醸成が必要不可欠であり、むしろ住民をつなぐための日頃からの取組、特に住民同士の顔の見える関係づくりに焦点を当てて考えていくこととしました。（第 4 回全体会議）

【審議テーマ】～日頃の住民をつなぐ取組が減災につながる～

2. 調査審議経過

(1) 「日頃の住民をつなぐ取組」について知る

- ・「人・まち・わづくり部会」では、いかにして住民同士が顔の見える関係をつくれるかを考えるために、次のような調査等を行いました。

調査等	内容
①町内会・自治会ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会・自治会における「顔の見える関係づくり」に資する取組について ・取組のポイント、工夫している点 など
②フォーラムの意見交換 (区民会議カフェ)	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ1:近隣の人と顔見知りになる上で困っていること ・テーマ2:近隣の人と顔見知りになるために行っていること
③フォーラムのシール投票	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会・自治会への加入状況 (加入している理由/加入していない理由)

①町内会・自治会ヒアリング（実施期間：H27.8.25～H27.11.18）

- ・多摩区内の5つの町内会・自治会に協力をいただき、日頃からの取組についてヒアリングを実施しました。ヒアリングを通じて、各町内会・自治会では、「住民同士の顔の見える関係づくり」に資する様々な取組が行われていることが分かりました。



※勉強会として、区役所に本多会長を招いて話を伺いました。

【長沢自治会】

○役員や班長等の役職を輪番制にしている

役員や班長などの役職を輪番制にすることにより、役職に就いた人が、町内会・自治会の活動を理解できるようになると同時に、様々な人と出会うことができる。

○活動やイベントを定期的開催している

盆踊り、お祭り、防災訓練、美化活動など、定期的（月1回程度）に活動やイベントを行っている。町内会・自治会の活動をPRでき、参加によって住民同士の交流が生まれる。

<長沢納涼盆踊り大会>



<ヒアリングの様子>



【宿河原町会】

○活動やイベントを継続している

単発で終わらせるのではなく、毎年継続して開催するように努力している。これにより地元に着させ、住民が毎年参加するようになっている。また、過去の課題を整理し解決策を検討して毎年スパイラルアップさせている。そうして、参加者の満足度を上げるようにしている。

○活動やイベントごとにターゲットを決めている

イベントについては誰でも参加できることは前提であるが、イベントごとにある程度ターゲットを決めて、各対象が参加しやすくなるようにしている。

<灯籠流し>



<ヒアリングの様子>



【生田団地自治会】

○美化活動で顔見知りの関係が生まれている

階段ごとに設定した班から必ず人を出して月1回の美化活動を行っている。美化活動を通じて、住民同士の会話が生まれ、顔見知りの関係がつけられている。

○住民の得意分野が活かされている

住民の中にポスターやチラシの作成に長けた人がいて、団地内のイベントのポスター、チラシを作成してもらっている。このように、住民それぞれに活躍の場がある。

＜防災訓練のバケツリレー＞



＜ヒアリングの様子＞



【登戸台和町会】

○地域資源を活かしたイベントで人を集めている

たとえば、地域の桜を活かしたイベントで、地元の農家と連携して野菜の即売会を開催するなど、より地域の人々の関心を高め、参加者を多く集めるための工夫をしている。

○地域の小学校とのかかわりを大事にしている

小学校の行事に積極的に協力することで、町内会の行事などに小学校が協力してくれる関係が築かれている。

＜登戸さくら祭り＞



＜ヒアリングの様子＞



【大作自治会】

○杉山神社が地域の核となっている

大作自治会では杉山神社を地域の核として、盆踊りや祭礼、お正月の餅つきなどの行事を開催している。

○向こう三軒両隣の関係を大事にしている

災害時には自助に加えてご近所同士の助け合いが重要になると考え、班単位での炊き出し訓練を行うなど、まずは小さな範囲での関係強化に取り組んでいる。

<杉山神社とお祭り>



<ヒアリングの様子>



②区民会議カフェ（区民会議フォーラムの意見交換）

- ・区民会議カフェでは、「近隣の人と顔見知りになる上で困っていること」、「近隣の人と顔見知りになるために行っていること」の2つのテーマについて意見交換しました。

■テーマ1：近隣の人と顔見知りになる上で困っていること

→機会の少なさ、アプローチの難しさについての意見が目立った

- ・初めに、「近隣の人と顔見知りになる上で困っていること」をテーマに意見交換を行ったところ、「知り合いになる機会がない。」「定期的な集まりがないので、顔見知りになりにくい。」など、顔見知りになるための機会の少なさについての意見が多く出されました。また、「声をかけるのはハードルが高い。」「顔見知りの関係を望まない人もいる。」といった、アプローチの難しさについての意見もありました。そのほか、「戸建とアパート・マンションに住む人として地域に対する意識が違うように思える。」という住まいの形態による違いを挙げる意見もありました。

■テーマ2：近隣の人と顔見知りになるために行っていること

→あいさつなどの日頃の心掛け、地域活動への参加が有効との意見

- ・次に、「近隣の人と顔見知りになるために行っていること」について意見交換しました。普段の心がけとして、「あいさつ」や「回覧板を回す時に直接手渡すようにする」といったものが挙げられました。また、「町内会・自治会の活動やボランティア活動に参加するようにしている。」といった、より積極的な地域活動への参加が効果を生んでいるといった意見もありました。ほかにもアイデアとして、「現代は忙しい人が多いので、メール、SNSなどを用いた連絡手段を用いたらどうか」という意見もありました。区民会議カフェの参加者に関しては、日ごろからの意識の高さがうかがえました。

③町内会・自治会への加入に関するシール投票

・区民会議フォーラムでは、生田緑地を訪れた人に、町内会・自治会に入っている理由、入っていない理由を聞くシール投票を行いました。入っていない理由として最も多かったのが、「ア. きっかけがないから」の38%、次いで「エ. 知らないから」の31%となり、区民会議カフェでの意見とも共通した傾向が見られました。

＜シール投票結果＞

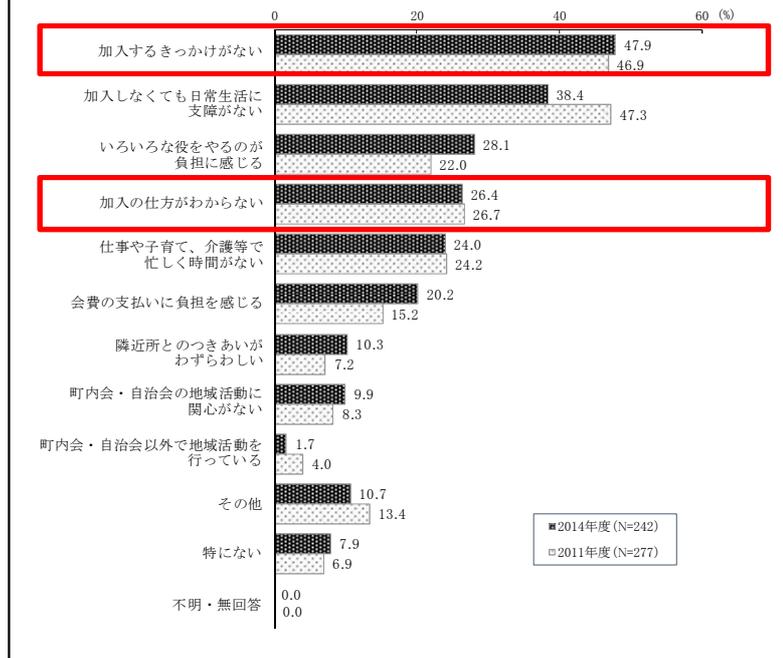
		投票数(人)	割合(%)
入っている	ア. ご近所と親しくなりたいから	53	17%
	イ. 地域のことに関わりたいから	49	16%
	ウ. 魅力的、楽しそうだから	11	4%
	エ. みんなが入っているから	137	44%
	オ. 親の代から入っているから	47	15%
	カ. その他	14	4%
	合計	311	100%
入っていない	ア. きっかけがないから	48	38%
	イ. 活動に参加する時間がないから	9	7%
	ウ. 必要を感じないから	6	5%
	エ. 知らないから	39	31%
	オ. わずらわしいから	2	2%
	カ. その他	22	17%
	合計	126	100%

○参考：平成26年度多摩区区民意識アンケート

14. 町内会・自治会に加入していない理由

問9-1 あなたが町内会・自治会に加入していない理由をお選びください。
(あてはまるものすべてに○)

図14-1 町内会・自治会に加入していない理由



(2) 提言のとりまとめに向けた考え方の整理

- ・これまでの調査等を通じて、次のことがわかりました。

〈町内会・自治会ヒアリングでは・・・〉

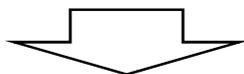
■町内会・自治会では、考えていた以上に様々な取組が行われている

- ・地域における様々な取組から、顔見知りの関係づくりを促進するためのヒントを得るために、5つの町内会・自治会にヒアリングを行いました。いずれの町内会・自治会においても、地域での人と人とのつながりに資する様々な取組が、考えていた以上に活発に行われていることがわかりました。

〈区民会議カフェ、町内会・自治会への加入についてのシール投票では・・・〉

■近隣との関係づくりや町内会・自治会への加入に関して、「きっかけ」や「情報」のなさを指摘する意見も

- ・ヒアリングを通じて、地域で様々な取組が行われていることが分かった一方で、区民会議フォーラムでの意見交換やシール投票では、近隣との関係づくりや町内会・自治会への加入について、「きっかけ」がないために行っていない、町内会・自治会についてそもそも「知らない」といった意見が多く見られました。部会の委員からは、「自らそれを望まない人もおり、町内会や自治会でできることにも限界がある」との意見も出されました。



〈これまでの調査等を踏まえて・・・〉

■いざという時に自分や家族の命を守るためには、「向こう三軒両隣」の大切さをいかに多くの人に知ってもらうかが重要である

- ・これまでの調査等から得られた結果は、社会や地域住民の価値観の多様化を反映しているものとも考えられますが、いざという時に自分の命、家族の命を守るためには、「自助」だけでは限界があり、町内会や自治会への加入やその活動への参加といった形で地域と関わる以前に、まずは地域の最小単位とも言える「向こう三軒両隣」での助け合いが必要になると部会では考えました。そのためには、「向こう三軒両隣」とあいさつだけでも交わせる関係が地域の中で数多くつくられることが重要ですが、たとえ関係がつくれなくとも、その大切さをできるだけ多くの区民に知ってもらうことがまずは必要ではないかと考えました。



“向こう三軒両隣”の大切さを知ってもらうための取組について考える

3. 「人・まち・わづくり部会」からの提言の検討

(1) 提言の方向性

日頃の住民をつなぐ取組が減災につながる。



いざという時、自分や家族の命を守るために“向こう三軒両隣”が大切である。

- ・いざという時（災害時）に自分の命、家族の命を守るために、普段から自分でできることを準備しておくことは大事ですが、それと同じくらい地域（町内会・自治会くらいの範囲）や近隣（向こう三軒両隣くらいの範囲）で助け合うことも重要になります。特に災害が起きた直後は、隣同士でどれだけ助け合えるかがカギとなります。そのため、普段から“向こう三軒両隣”と顔見知りになっておくことは重要です。
- ・防災や地域での助け合いに必要な考え方として、「自助」「互助」「共助」「公助」というキーワードが使われています。“向こう三軒両隣”という言葉からは、このうちの「互助」というキーワードがイメージされます。

<参考：自助、互助、共助、公助の考え方>

○川崎市地域防災計画（震災対策編）における定義

自助：「自らの生命は自ら守る」という考えに基づき、市民一人ひとり、企業それぞれが自分自身の生命、身体及び財産を守る。

共助：「地域のことは地域で守る」という考えに基づき、地域内及び地域同士で連携して地域の安全を守る。

公助：「総合的な防災対策の推進」という考えに基づき、行政・防災関係機関は個人、地域と連携した防災対策を実施し、市域を守る。

○川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョンにおける定義

自助：自らの活動により、自らの生活や健康を維持すること

互助：ボランティア等のインフォーマルなサポートによる助け合い

共助：医療保険や介護保険のような社会保険を介して提供されるサービス

公助：自助・互助・互助・共助では十分な対応ができない場合に、主に税負担により提供される社会福祉等

(2) 考えられる取組

- ・「いざという時、自分や家族の命を守るために“向こう三軒両隣”が大切である」ことについて多くの区民に知ってもらうための方法として、次のようなものが考えられます。区民全体を対象とした取組を中心にしつつ、これから多摩区へ住もうとする人（転入者）にも対象を絞った方法を考えました。

対象	取組	内容
区民全体	■ 市政だよりで特集等	・ 市政だより区版に、“向こう三軒両隣”をテーマにした特集記事またはコラムを掲載する。
	■ PR冊子の作成・配布	・ “向こう三軒両隣”をPRする冊子を作成し、広く配布する。 ※目を引くデザインにすることがポイント。
	■ ホームページやSNSの活用	・ ホームページやSNSを活用して、“向こう三軒両隣”をPRする。
	■ 地域のお祭りなどのイベント情報発信	・ 地域のお祭りなどのイベント情報と併せて、“向こう三軒両隣”をPRする。ポスター、チラシなどの紙媒体以外にも、ホームページやメール、SNSも活用する。
	■ あいさつ運動	・ 第4期区民会議提言の「あいさつ運動」について、推進強化する。
	■ “ジモカツ”の活用	・ 区役所などの公共施設のモニターで“ジモカツ”の町内会活動動画を流すなど、“ジモカツ”を有効的に活用する。
	■ 表札設置を勧める（転入者と共通）	・ “向こう三軒両隣”の関係づくりの第一歩として、表札の設置を勧める。
	■ キャッチコピー	・ 「命を守る“向こう三軒両隣”」、「もしものときの“向こう三軒両隣”」「be a good neighbour（ビー・ア・グッド・ネイバー＝向こう三軒両隣と仲良くしよう）」などのキャッチコピーをつくり、区民全体に周知する。

対象	取組	内容
転入者	■ 転入者用PRチラシの作成	・転入者に配布する各種案内の中に、“向こう三軒両隣”の重要性を訴え、その手法（あいさつや表札の掲出など）を紹介するPRチラシを加える。
	■ 町内会・自治会加入パンフレットの工夫	・既に各種案内にある町内会・自治会加入パンフレットに、申込用のはがきやQRコードを付ける。
	■ 町内会・自治会PRイベントの活用	・4月の転入者が多い時期に区役所で開催されている町内会・自治会のPRイベントの際に、「いざという時に、自分や自分の命を守るために“向こう三軒両隣”が大切である」ことをPRする。

<事例：横浜市都筑区の「自治会町内会」加入案内と入会届>

加入案内の一部に入会届（はがき）が付いている。はがきにはQRコードが付いており、簡単にメールでの申込みもできる。

※別に資料編として、勉強会報告、町内会・自治会ヒアリングシート等が付きまます。